

地域を挙げて赤土流出防止に取り組むことで、島の美しい海を後世へと継承

- 土壌侵食防止機能 -

伊良部地域・農地・水・環境保全管理協定運営委員会



宮古島と伊良部島を繋ぐ
伊良部大橋

伊良部島は、宮古島の北西に位置する離島で、農業や水産業を主産業としている。平成 27 年から伊良部大橋により宮古島と陸路で繋がれたことで、珊瑚に囲まれた美しい海を目当てに多くの観光客が訪れている。

沖縄の農村では、美しい海域への赤土流出を防止するため、農地の傾斜を緩くしたり、濁水を一時貯留する沈砂池を設ける等の対策が行われており、同島では、「伊良部地域・農地・水・環境保全管理協定運営委員会」が、地域住民を巻き込み沈砂池等を維持・管理することで、農村の多面的機能が發揮されている。



沖縄県宮古島市



降雨の影響でほ場から
海へと流出する赤土

〔土壌侵食防止〕

ほ場内に設けた水路や沈砂池は、農地や道路、斜面などの降雨を速やかに集め、泥を落とし、放水することで、過剰な土壌侵食や土壌流出を防いでいる。伊良部島の各部落では、月に 2 ~ 3 回の頻度で地域住民が集まり、沈砂池や側溝の泥上げを行うことで、施設の機能を維持している。また、大雨の際には、赤土が海域へと流出していないか住民達が率先して見廻りを行い、流出している箇所を見つけた場合は、住民一丸となって対応を行っている。この様な活動は、各区長を中心に 10 年近く継続されており、今日では、地域住民が主体の地元に着目した取組となり、参加者 1 人 1 人が土壌侵食や土壌流出に高い意識を持つようになってきている。

〔保健休養、景観の保全〕

同島のほ場の回りには、グリーンベルトとして花や樹木が植えられており、土壌流出を防ぐだけでなく、さとうきび畑を含む沖縄らしい農村景観を形成している。同委員会では、住民によるグリーンベルトの植栽活動をサポートすることで、美しい景観の維持に努めており、島外から訪れる多くの観光客達に、大きな感動や癒やしを与えている。



赤土流出箇所は
住民一丸で早急に対処



赤土が取り除かれ、きれいになった沈砂池や農道



グリーンベルトとして植栽されるジャノヒゲ



地域住民の活動で守られている美しい島の景観